

第17回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（2023年度）

<敬称略>

<p>武田 隆 (たけだ たかし)</p>	<p>山形県 西川町立病院[院長]</p>
<p>昭和61年自治医科大学卒。県立中央病院および川西町立病院勤務を経て、平成4年に西川町立病院の外科医長として着任。</p> <p>以降、院内での手術、診察、救急患者の対応等に加え、認知症サポート医や産業医としてへき地医療の確保に尽力。また「保健・医療・福祉」の包括的一元化の推進に寄与し、地域包括医療の実現にも大きく貢献。</p> <p>さらには、出張診療、訪問診療、訪問看護の充実など地域医療充実へ取り組み、自らも付属診療所（岩根沢診療所、小山診療所、大井沢診療所）に赴いての診察など、へき地における医療確保に献身的に尽くされる。令和4年4月には院長に就任。</p> <p>過疎地域における医師不足解消のため、通算31年間にわたり県内有数の豪雪地帯で診療や保健検診事業等に尽力。</p>	
<p>鈴木 善幸 (すずき よしゆき)</p>	<p>新潟県 魚沼市医療公社魚沼市立小出病院 地域医療教育・研修センター[センター長]</p>
<p>昭和61年自治医科大学卒。町立相川病院、県立六日町病院、県立小出病院等へき地病院を歴任後、平成18年に県立松代病院へ着任、平成20年に同院院長へ就任。</p> <p>在任中には学校医を務める小中高校生を対象とした授業による「無煙世代」の育成に注力。地域医療研修中の研修医を授業の担い手とすることで、地域医療における保健活動との協働が持つ意義を若手医師へ伝達。</p> <p>また平成29年に魚沼市立小出病院の地域医療教育・研修センター長へ就任。他院からの地域医療研修を積極的に受け入れ、多種多様な疾患や健康問題を抱える高齢者に対して効果的な医療が提供でき、地域包括ケアに対応したリーダーシップをとれる総合的診察能力を有する医師の養成に尽力。</p> <p>さらに新潟大学や岩手医科大学から地域医療臨床実習を毎年多数受け入れ、指導・実習を通じた多職種連携や地域包括ケアを学ぶ機会を提供。その他、医師以外の医療職・介護職へ共通言語を増やすための講義や感染症対策に関する講義などを通じて、学生指導や市民への情報提供活動にも精力的に取り組まれている。</p>	
<p>手操 忠善 (てぐり ただよし)</p>	<p>滋賀県 長浜赤十字病院[非常勤]</p>
<p>昭和55年自治医科大学卒。義務年限5年目の昭和59年に滋賀県東浅井郡浅井町(現：長浜市)の中部診療所に所長として着任。義務年限終了後も引き続き県職員として中部診療所長を務め、以来35年間にわたって山村地域、豪雪地域でもある浅井町の医療確保・充実に尽力し、当該地域住民の診療はもとより健康づくりまで含めて地域医療に極めて大きく貢献。</p> <p>国民健康保険組合直営診療所運営の社会的使命を自覚し、限りある資源や社会情勢の変化に配慮した公正な医療の提供および公衆衛生の向上に努められる。</p> <p>また自らの役割に基づく常に冷静な言動や、誰に対しても謙虚かつ誠実な態度に加え、臨床上の情報を常に収集・評価して医薬品等による健康被害の発生防止について理解し、適切な診療を行うなど、患者からの信頼も厚い。</p> <p>さらに平成25年からは湖北医師会長として会員をまとめ、湖北地域の地域医療や多職種連携、保健福祉介護事業等の推進に向けて県や市を含む行政と密に連携しながら取り組まれ、積極的に公衆衛生の推進に寄与。平成31年に県職員退職後も引き続き地域医療に貢献し続けている。</p>	

<p>松下 耕太郎 (まつした こうたろう)</p>	<p>島根県 隠岐の島町国民健康保険中村診療所[所長] (兼) 隠岐の島町布施へき地診療所[所長]</p>
<p>昭和61年香川医科大学医学部卒。隠岐の島ウルトラマラソンに参加して島内の医療逼迫を知り、平成22年に国民健康保険中村診療所(兼)布施へき地診療所の所長として着任。フットワークの軽さを発揮して往診、訪問診療、在宅看取りだけでなく、週末の青空健康教室では健康寿命を限りなく平均寿命に近づける必要性を啓発。</p> <p>また地域連絡会では、高齢者福祉施設代表者に加え、派出所警察官、民生委員、社会福祉協議会担当者、役場職員の参加を求め、地域全体で認知症、独居高齢者の孤独死対策として見守り体制を強化し、島内でもモデル的な会議に発展させている。</p> <p>さらに令和6年に予定されている隠岐病院と町立診療所の一元化計画については、準備検討委員の中心メンバーとして課題を洗い出し、住民への説明に尽力。高齢者口腔内ケアの必要性を歯科医師と共有し、医科歯科連携を密にする体制も構築。産業医としてメンタルヘルス対策に取り組みられるとともにメンタル不調休職者の再発予防にも貢献されるなど、島民からの信頼も厚く地域住民の健康福祉の増進への幅広い活動による功績は極めて大きい。</p>	
<p>藤家 証一 (ふじか しょういち)</p>	<p>広島県 大和診療所[所長]</p>
<p>昭和58年自治医科大学卒。卒業後は広島県職員として採用され、義務年限期間中はへき地診療所、過疎地域の中小病院やへき地医療拠点病院などに勤務。</p> <p>平成元年以降、三原市大和町において診療所長を務め、外来診療に加え往診等による在宅医療も積極的に実施。専門である内科以外に小児科、外科、皮膚科、心療内科など多科にわたる診療に加え、乳児医療、予防接種、学校医などの保健活動から癌などの終末医療まで幅広く1人で対応されるなど、住民が安心して暮らせるための初期医療を担う「地域のかかりつけ医」として日々奮闘されている。</p> <p>また医師としての大半をプライマリ・ケアの現場で活躍。プライマリ・ケアの特質を「幅の広さ」と考え、住民の身体・心理的な問題から社会的問題まで多種多様な問題に対応し、医療の枠を超えた「保健・医療・福祉」の連携にも尽力。</p> <p>ケアマネージャー、訪問看護、通所施設などと積極的に連携を図り、地域住民の生活をまるごと支えるための生活支援の基盤づくりへ精力的に取り組まれるなど、広島県内における地域医療の確保と住民福祉の増進に対して40年間もの長きにわたり果たされた功績は極めて大きい。</p>	
<p>川本 龍一 (かわもと りゅういち)</p>	<p>愛媛県 愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座[教授]</p>
<p>昭和60年自治医科大学卒。卒業後、県南予地域の中でも特に過疎化や高齢化が著しく進行する西予市野村地域の西予市立野村病院(へき地医療拠点病院)において、義務年限内を含めて30年余りの長きにわたり地域に根差した地域医療に従事。</p> <p>とりわけ野村病院内での内科診療や二次救急医療に従事される傍ら、病院から車で1時間ほどかかる山間地への訪問診療や、へき地診療所廃止に伴い導入した移動診療車による巡回診療など、医療資源に恵まれない地域の医療の維持・確保に尽力。加えて、西予市以外のへき地診療所への代診支援など、西予市野村地域に留まらず幅広く地域医療を継続的に提供。</p> <p>また西予市における急務の課題であった「地域包括ケアシステム」の構築に向け、いち早く「多職種連携と地域包括ケア研究会」を設立し、継続した会議開催により体制構築の課題や取り組みに関する関係者間の共有を深め、医療と介護の役割分担や多職種間の連携づくりを進め、野村病院の地域包括ケア病棟設置と西予市野村地域の「地域包括ケアシステム」体制構築に大きく貢献。その功績は極めて大きい。</p>	